## 首都圈中央連絡自動車道 谷田川高架橋(鋼上部工)工事

番号	質問箇所	質 問 事 項	回 答
1	設計図面 架設計画図(参考図)	218/244のステップ2及びステップ3の表記と、220/244の側面図の表記では、手延べ機から数えて4ブロック目の主桁架設を施工する場所が異なります。 (218/244ステップ2ではAD1~PD1間、220/244側面図ではPD1~PD2間)220/244の側面図は手延べ機から数えて5ブロック目の主桁架設の誤りと考えてよろしいでしょうか。	設計図P220/244はヤード計画図を示すものです。 架設計画につきましては、設計図P218/244をご参照ください。
2	設計図面 架設計画図(参考図)	218/244のステップ3で1回目送り出しはエンドレスローラーが使用できず、自走台車を使用せざるを得ませんが協議対象となりますか。	設計図P218/244 ステップ3に示す通り、1回目送り出しは、自走台車による架設桁の送り出しを計画しております。 よって、協議対象とはなりません。
3	設計図面 架設計画図(参考図)		貴社の施工計画に基づきお考えください。 なお、現地施工条件に変更があり、監督員が必要と認めた場合、協議対 象となるものとお考えください。
	219/244 架設計画図(参考図)(その2) の数量表についての質問	ベント設備工が132tとありますが、積算基準通りにベント重量を算出すると、ベント平均高さ4.7m、構造幅6m、柱4本(少数2主鈑桁)、 18基として234tとなります。 132tという重量は2主桁なので柱2本として算出されてないでしょうか。	現在内容確認中ですので、確認でき次第お知らせいたします。

	219/244 架設計画図(参考図)(その2) の数量表についての質問	台車設備工2台 重量台車(100t、40t)とありますが、 積算基準通りに台車耐力を算出すると台車の耐力(2腹板当たり) 前方台車の耐力>(W1+W2+WS)×G=(23.8+5.2+130)G =159Gとなり100t×2台必要 後方台車の耐力>((WS/2+Wb)×1.2)×G=((130/2+0)×1.2)G =78Gとなり40t×2台必要 手延機の質量W1=23.8t、連結構の質量W2=5.2t、後部桁Wb=0t 送出しする橋体重量は送出し支間長43mでWS=130t (送出し桁長75.625m(7ブロック)、送出し重量228.6tから算出)、 台車設備工2組 重量台車(100t、40t)もしくは台車設備工4台 重量台車(100t、40t)の表記ではないでしょうか。 確認をお願いします。	現在内容確認中ですので、確認でき次第お知らせいたします。
6	219/244 架設計画図(参考図)(その2) の数量表についての質問	降下用ジャッキ4基 75tとありますが、ジャッキの能力は反力の2倍以上で選定しなければならないので、 反力=送出し重量228.6t/4箇所=57.15t/箇所となり、 反力の2倍は、114.3tなので、 150tジャッキ×4基が必要となりますので、確認をお願いします。	現在内容確認中ですので、確認でき次第お知らせいたします。
7	219/244 架設計画図(参考図)(その2) の数量表についての質問	219/244の送り出し架設断面図において、台車が6mの距離で対になっており、 台車フレームが必要と思われますが計上されてますでしょうか。 計上されてない場合、協議対象となりますでしょうか。	特記仕様書22-6-4(4)に示すとおり、鋼橋の架設の施工に要する全ての費用に含まれます。
8	219/244 架設計画図(参考図)(その2) の数量表についての質問	218/244送出し架設フローおよび221/224の工程表より降下作業は、 き電停止を最小限に抑えるため、 桁降下1回目1.8m、桁降下2回目1.7mとなっておりますが、積算基準では 単純桁の場合降下量は1m/日となっています。 積算基準から外れるので歩掛が増加するものと思われますが、 協議対象となりますでしょうか。	積算の内容に関する質問にはお答えできませんので、貴社の施工計画に 基づき必要な費用を計上ください。
9	219/244 架設計画図(参考図)(その2) の数量表についての質問	218/244ステップ5および221/224の工程表より送出し作業2回目は、80.7m/日となっておりますが、積算基準ではエンドレスローラー送出し日施工量は20~50m/日となっており、積算基準から外れるので歩掛が増加するものと思われますが、協議対象となりますでしょうか。	積算の内容に関する質問にはお答えできませんので、貴社の施工計画に 基づき必要な費用を計上ください。